



《歌舞伎座探訪》

歌舞伎は、高額・難解で敷居が高いと思われがちですが、今回もっと身近に楽しもうと行つてきました。

地下鉄・東銀座改札を出ると目の前が、歌舞伎座地下2階です。

コンビニあり、お土産屋さんあり、パン屋、お弁当屋さんありの「木挽町広場」。平成25年に建て替えられてから初めての観劇です。



歌舞伎座



木挽町広場

今回は、映画のチケットより安価な「一幕見席」を予約しました。(¥1000~月の演目、出演者により変動)昼間の三幕の内、一幕のみをチョイス。

一幕ごとに値段も上演時間も違い何より違うのは入口正面入口ではなく、一幕見席専用の往時のままを感じさせる端の入口。4階直通のエレベーターに乗りります。



お弁当を買い、座席で飲食します。

桟敷席では、注文しておくと、席まで届け、食後は、下げに来ます
一幕見席チケットでは行けないエリア有り。



座席は1808席、内「一幕見席」は4階にあり、指定席70席（ネット予約のみ）
当日自由席20席と数少なく、買えずに帰られる方がいて同情します。
4階でも、そこそこ表情が見られ花道は僅かに見える程度。やっぱりお値段ですね
《とちり席》

座席の数え方は、昔「いろはにはへとちりぬる…」の並びから「とちり」7列目から9列目の中央席が良席と言われ、舞台全体が見られ花道も近いです。現在は、1列、2列と数えています。



歌舞伎座タワー4階の
ギャラリーに行きましたが
生憎、期間休館日で入館
できませんでした。
歌舞伎の歴史や歴代の衣装
が、展示されているのだとか。

《昼の部・二幕目を観劇》 道行雪の故郷（みちゆき雪のふるさと）

あらすじ
遊女梅川と飛脚問屋の養子忠兵衛が
駆け落ちし、実父に会いに行く。
養父に対する不幸を嘆き、梅川が自分の
せいと二人で死出を覚悟するが別れる。
← パンフレットより



《隈取とは》 …顔の表情がわかりやすくなるようにと、初代市川團十郎が考案。
筆で線を引き指で片側にぼかすので、描くではなく取ると表現する。

赤……正義の味方、強さ、英雄を意味する
青・藍色……悪人、敵、亡靈
茶……鬼、妖怪、人間以外



残念……3階の「めでたい焼き」紅白餅入を
買いたかったのですが、一幕見席チケットでは3階に入れずガッカリです。

《歌舞伎座タワー5階日本庭園》

こじんまりとした庭園ですが、四季を感じられるよう樹木の配植がされ、隅には赤い毛氈が敷かれたベンチが、いくつかあり、ここでお弁当を食べることもできます。



《そもそも、歌舞伎とは》

徳川家康が、征夷大将軍になり、江戸幕府を開いた年（1603年）に誕生。

出雲の阿国の「かぶき踊り」から創始。

最初は男女が同じ舞台に立っていたが、風紀上よくないということで禁じられ、男性のみになった。

幼年男子も悩ましいので青年男子のみによる「野郎歌舞伎」が、定着する。

歌舞伎は、当時の事件、流行、言葉を表現して庶民が自ら育んできた文化で、江戸時代の人々に、最も身近にあった芸能です。

今では、セレブリティな人やマニアによる観劇が多いようですが、インバウンドの影響もあり、外国人観光客のラフなスタイルも多く見受けられます。

特別、着衣にドレスコードのような規定は、ありませんが何故でしょう？

和服や整った服装の多いのは……

《特別宣伝》

歌舞伎座正面に、私が故郷と勝手に思っている、

岩手県のアンテナショップ「銀河プラザ」があります。

田舎暮らしをしていた当時、このアンテナショップに遠野市で採れた山菜や「だんご」と呼ばれる田舎のスイーツ（木型に入れた大福に似た物）等を販売に、3日間売り子として出張しました。

おでってくなんしぇ～（お越しください）

懐かしい♪

6年生 小山久仁子

